

ENGAWA

2012年度 第3号



■表紙のことば

12月16日、震災後、東北から避難し浜松で暮らしている皆さんが、引佐町「美山農園」で、みかんの収穫を、お手伝いしました。昨年に引き続き行われたもので、二年目の参加者は、すっかり手慣れた様子。

参加者には、幼稚園のお子さんから70代の方まで、また、はままつ東北交流館、すぽあーとサポート東海の皆さんや、当日の手作りのお弁当を用意してくれた引佐の女性団体「きたっこ」の皆さんなど、多くの方々が交流する事が出来ました。東北の方々からは「少しでも、(浜松)に恩返しができたような気がして嬉しかった」との感想も頂きました。

目次

◆ 特集 市民協働で地域活性

引佐町の「ほたるの会」、雄踏町の「らびりんすゆうとう」地域活性を目指し開催した、それぞれの事業をご紹介します。 ページ2・3

◆ エンガワトピックス

- 「細江のまちの宝探し」
学生たちと地元が連携して
ページ4
- スキルアップ講座開催
ページ5

◆ Check!!

市民協働センターのご紹介。
市民活動団体登録を
してみませんか？

特集 市民協働で地域活性

いなさ路プラットウォーク

引佐
ほたるの会



団体のはじまり

昨年11月、引佐地域の活性化を目指し活動している、ほたるの会による、ウォークラリーイベント『いなさ路プラットウォーク』が行われました。

企画したほたるの会は、緑あふれる引佐町を多くの人に知ってもらい、地域を担う次世代のために今、私たちができる事をやっていこうという思いから、昨年8月に地元の女性を中心となり発足した団体です。



地元の男性の方たちも歴史説明員として活躍

まずは、引佐の魅力を多くの人に知ってもらおうと、引佐町田沢周辺に点在する文化財や、引佐の秋の風景をめぐる、ウォークラリーイベントを計画しました。

協働の成果

「せっかく引佐まで来てくれるのだから、満足して帰ってもらいたい。」と、会のメンバーからは、工作教室やおみやげもあげたらどうかなど、様々なアイデアが出てきました。

しかし、資金ゼロから始まったこのイベントに、おみやげを見繕う資金などありませんでした。お金がなければ、協力してくれる協力者を増やせばいい。メンバーたちは、地元の農家や、

自治会、さらには企業などにも出向いてイベントの趣旨を説明し、協働相手をさがしました。

その結果、住民や企業からは多くの寄付が得られ、趣旨に賛同した団体からは、それぞれの特徴を生かして、絵手紙教室や授産製品の販売、障がい者によるコンサートなどが行われました。さらに、各地にある文化財などには地元の男性長寿者の皆さんが説明員となり、参加者に地域の歴史や文化財の解説をしました。

スタンプラリーを全ポイント達成した参加者には、参加賞として地元農家から提供された新米や、野菜など新鮮な農作物が贈られました。

協働が成功をもたらした、引佐の事例紹介でした。

今回は、北区引佐町と西区雄踏町で行われた協働による地域活性化を目指した、2つの事業を紹介します。

すこコン 復活祭

地域活性化プロジェクト 「らびりんすゆうとう」

すこコンとは・・・

雄踏町に古くから伝わり50年ほど前から途絶えてしまった地の神様のおまつりです。

雄踏町では、家に住む方が亡くなると50年後にその家を守る「地の神様」になるという言い伝えがあり、毎年12月15日庭に地の神様の社を作り、「おもっそ」といわれる赤飯をお供えしました。

それを近所の子どもたちがキツネのまねをして「すこコン、すこコン、すこコンコン」と歌いながら、もらい歩いたと言われます。



雄踏中学生も当日ボランティアとして参加。伝承遊びコーナーのお手伝いで大活躍。

お祭り復活で街を元気に

雄踏地域の活性化を目指し活動している、「らびりんすゆうとう」主催の、すこコン復活祭が12月15日（土）雄踏文化センターで行われました。

この復活祭は、50年ほど前に雄踏地域で途絶えてしまった、地の神様のお祭りを復活させるというもの。当時、祭りの時に子どもたちが歌っていたという

「すこコン」をキーワードとして、地域活性のために行われました。

地域の良さ盛りだくさん

当日は、雄踏文化センター内のイベント広場や各講座室を使い、様々な昔ながら伝承遊びのコーナーが設けられました。訪れた子どもたちは、スタンプラリー形式で各コーナーを「すこコン♪」と歌いながらまわります。そして、スタンプを集めた子どもたちは、「おもっそ」という赤飯をもらい大喜び。

また、当日は雄踏町の「たきや漁」「中村家住宅」「息神社」「雄踏歌舞伎」のパネル展示や「雄踏町の歴史講座」も開催。すこコンをテーマにしたオリジナル物語の「紙芝居」の上演や



餅つき、抽選会、雄踏吹奏楽団の演奏など盛りだくさんのプログラムに、会場は始終熱気に包まれていました。

手作りイベントいっぱい

主催者である「らびりんすゆうとう」代表の吉田さんは、一年をとおして、この「すこコン」をキーワードにした様々なイベントを企画し、まちの活性化をすすめていきたいと話していました。



地の神様のお社。このお社の下に「おもっそ」といわれる赤飯を、祀るそうです。

「細江のまちの宝探し」

初めて歩く細江のまちに興味津々のようす



11月18日、北区細江町で、大学生と地元住民によるまちづくりワークショップが行われました。

若者の目線で細江のまちを見て、意見を聞かせてほしい！という呼びかけに集まったのは、静岡文化芸術大学と静岡大学の6人の学生たち。細江のまちを元気にしようとがんばっている、細江まちづくり協議会からの発案で実施されました。



細江公園展望台から、まち全体を見渡しました

学生たちは事前に細江の街を散策。気賀駅を出発点に、細江神社、細江公園、気賀関所跡などの名所旧跡をはじめ、何気ない家の辻々や細い路地にも興味津々。また、細江公園の展望台、三ヶ日に続くオレンジロードも見学しました。

街中の散策では、古くからの歴史を伝えるものがたいへん多く残っていること、展望台から

オレンジロードの見学では、眼下に広がる浜名湖の景色の美しさに歓声も上がるなど、細江の「宝」を学生の視点で確認しました。お昼には、北区で活躍する女性団体「北区女性団体連絡協議会（きたっこ）」さんのオリジナル“きたっこ弁当”をいただきました。

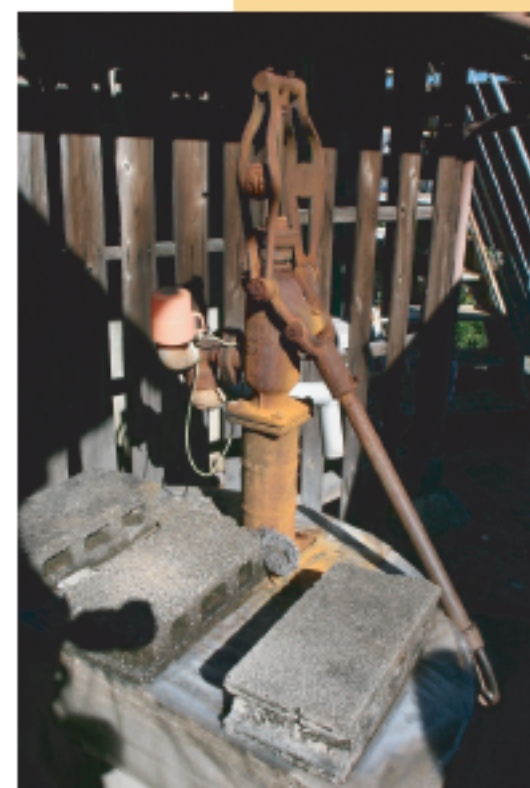
若者の元気が まちを変える！

午後からは、細江まちづくり協議会の皆さんとワークショップを行いました。地元住民、大学生それぞれの視点から、細江を元気にする魅力的なアイデアが飛び出しました。

『細江公園を整備してまちづくりの拠点にしたい』『日帰り観光客をターゲットにしたマップ作り』など、これまではつい問題点にばかり目が向いていた地域の方も、若者の活気をもらい、前向きな話に盛り上がって



街中を散策した大学生は、たくさんの“宝”を見つけました



気賀関所跡に残る古井戸も、隠れた宝

いました。

今回は、地域の“よそ者”である大学生と、その地域に住む人たちが交流することで、今まで気づかなかった地域の魅力や資源を再発見することができたのではないのでしょうか。

地域に人を呼び込もうとする動きが各地で盛んになっている今、今後は、どのようにして細江のファン、リピーターを増やしていくかが大きな課題であることも再認識されました。



ワークショップでは盛んに意見が交わされました

NPO団体養成スキルアップセミナー 企業CSRから協働のヒントを探る

第1回講座…CSR事例の視察 11月23日

『本田技研工業株式会社の活動事例』

第1回は、自動車メーカーの本田技研株式会社浜松製作所を訪問、HONDAのCSR活動のなかでも、とくに環境に対する取り組みについて教えていただきました。わたしたちが驚いたのは、敷地内につくられた広大な面積のビオトープ。『ふるさとの森づくり』というこの活



多くの質問が投げかけられました

動は、その土地の生態系にあった植物を植えることで、周囲の環境を維持することを目的としています。実際に様々な動植物が生息し、現在子どもたちの環境学習の場ともなっています。

地域に根ざした活動を

HONDAでは、企業利益を追求するだけでなく、企業活動が社会に及ぼす影響に責任を持ち、そのうえで地域に根ざした活動をしていこう、という理念のもとでこのような取り組みをしているそうです。参加者からは、『地元企業の取り組みを知ることができてよかった』『市民団体と連携したら、さらに発展できるのではないか』などの

11月から1月の全3回にわたり、『NPO団体養成スキルアップセミナー』が開催されました。この講座は、所属しているNPOや市民活動団体の活動をより充実させたい方、また企業との協働を考えている団体の方を対象に開講。地元企業が取り組むCSRに焦点を当て、そこから協働のヒントを学ぼうというものです。
今回は、地元で活躍する企業からお話を伺った、第1回と第2回のような紹介をします。



ビオトープ内の樹木を観察する参加者

感想が寄せられ、参加者の協働への意識が、一歩進んだように感じました。

第2回講座…わが町の企業CSR事例 12月8日

『ヤマハグループのCSR活動』

第2回は、ヤマハ株式会社から、CSR推進担当課長の阿部さんをお招きしてお話を伺いました。

ヤマハ株式会社では、音楽の普及、環境保護活動、地域への貢献など、国内外を問わずさま



ヤマハのCSRについて解説して下さった阿部さん

ざまな分野においてCSR活動をおこなっています。身近なところでは、中田島砂丘の海岸林への植林や、『ハママツ・ジャズ・ウィーク』を通じた街づくりへの参加、地元の大学生との協働による子どもたちへの手作りギター教室などを開催。これまで培ってきた音楽や音技術を活かし、地域社会への貢献を目指しているそうです。

CSRとの協働を

その一方で「CSRの取り組みについては常に模索している」と阿部さんはおっしゃっていま

した。参加者からは、『一緒になにかできないか』という提案もあり、今回の講座で、少しでも協働のヒントをつかんでもらえたのではないかと思います。

みなさんも今一度、協働について考えてみませんか？



普段聞くことの出来ない大手企業の生の話しに、熱心に耳を傾けていました

Check!



市民協働センターをご紹介します！

市民のみなさまからのご質問で、市民協働センターってなにをしているところなの？具体的に、どんなことができるの？といった内容の質問をいただくことがあります。今回は、そんな質問にお答えするべく、市民協働センターのやっていることをご紹介しますと思います。

市民協働センターとは？

魅力のある暮らしやすいまちをつくるため、さまざまな市民活動が行なわれています。そうした活動をさらに支援していくため、市民協働センターとして、日々業務を行なっています。

何ができるの？

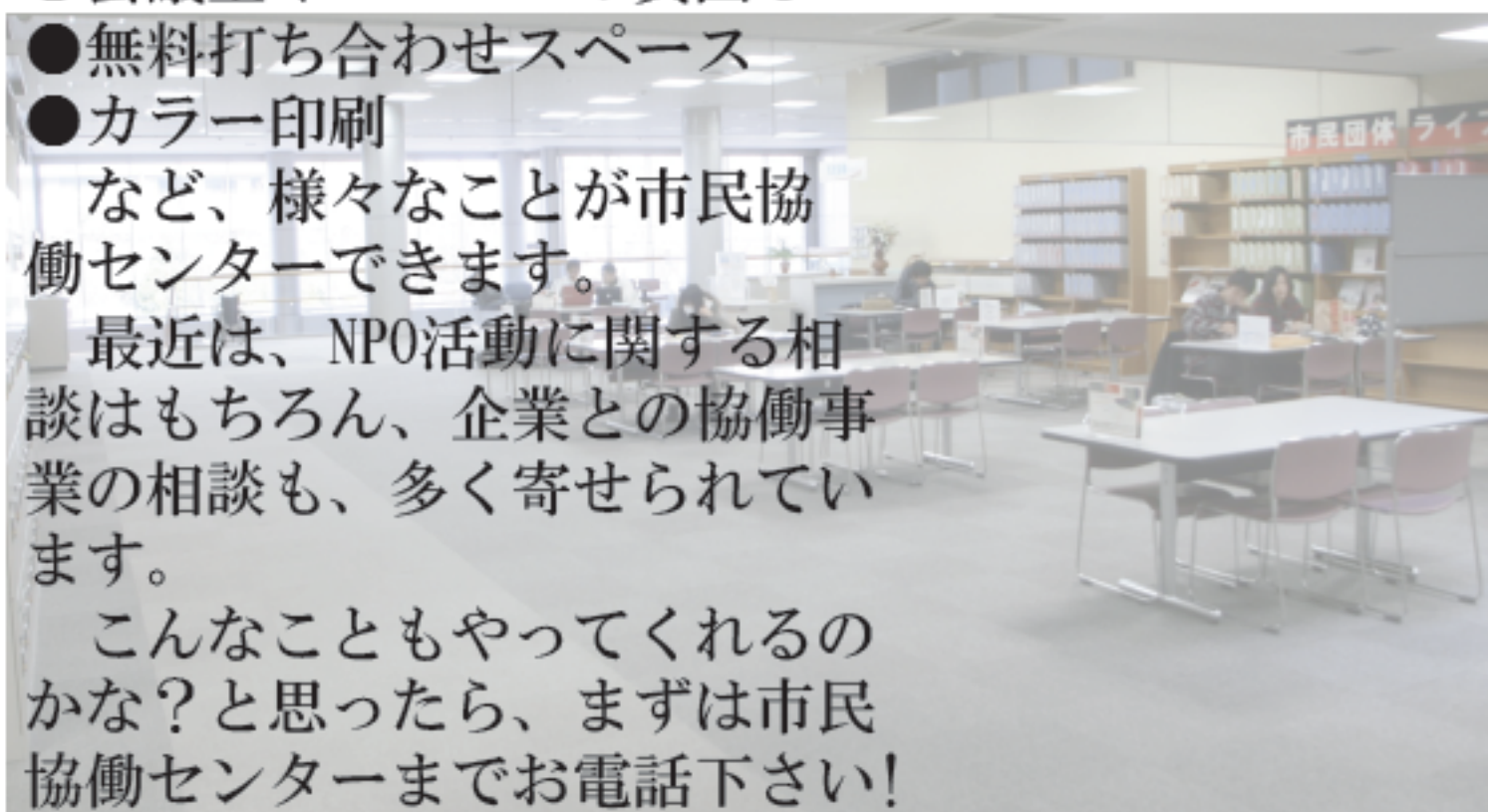
- 市民活動団体やNPO法人の設立や活動相談。
- NPO・企業・行政の中間支援やコーディネート

- CSR事業の相談
- 会議室やスペースの貸出し
- 無料打ち合わせスペース
- カラー印刷

など、様々なことが市民協働センターできます。

最近では、NPO活動に関する相談はもちろん、企業との協働事業の相談も、多く寄せられています。

こんなこともやってくれるのかな？と思ったら、まずは市民協働センターまでお電話下さい！



登録団体になってみませんか？ ■■■■■■

浜松市市民協働センターでは、日頃から社会貢献活動をされている市民活動団体のみなさまへの市民活動団体登録(通称 登録団体)をすすめています。

市民協働センターの登録団体に登録していただくと、みなさまから寄せられた情報を市民協働センターのメーリングリストやブログやFacebookなどのインターネットサービスを使い、広く情報発信をするお手伝いをさせていただきます。また、市民協働センターの施設利用が通常の利用料より半分の利用料でご利用いただけるようになります。市民協働センターホームページより申請用紙をDL下さい。

発行 浜松市市民協働センター

〒430-0929

浜松市中区中央一丁目13-3

TEL 053-457-2616 FAX 053-457-2617

URL <http://www.machien-hamamatsu.jp/>

E-Mail kyoudou@machien-hamamatsu.jp